

定期作況報告

平成15年11月
(11月20日現在・最終)

北海道立北見農業試験場

1 . 気象経過

1) 融雪期以降の経過

4月：上旬の最高気温は平年並、最低気温・平均気温は平年よりやや低かった。中旬の最高気温は平年より極めて高く、最低気温・平均気温は平年より高かった。下旬の最高気温・最低気温・平均気温は平年よりやや高かった。日平均気温の月平均は5.3 で平年より0.9度高かった。降水量は上旬・中旬・下旬とも平年並であった（月合計54.5mmで平年の117%）。日照時間は上旬・中旬・下旬とも平年並であった（月合計153.4時間で平年の102%）。

5月：上旬の最高気温は平年より高く、最低気温は平年よりやや低く、平均気温は平年並であった。中旬の最高気温は平年並、最低気温は平年よりやや低く、平均気温は平年並であった。下旬の最高気温は平年に比べて極めて高く、最低気温は平年並、平均気温は平年より高かった。日平均気温の月平均は11.0 で平年より0.6度高かった。降水量は上旬が平年並、中旬は平年より少なく、下旬は平年より極めて少なかった（月合計24.0mmで平年の37%）。日照時間は上旬・中旬・下旬とも平年並であった（月合計144.3時間で平年の105%）。

6月：上旬の最高気温は平年に比べて極めて高く、最低気温はやや低く、平均気温は平年より高かった。中旬の最高気温・平均気温は平年に比べて極めて高く、最低気温はやや高かった。下旬の最高気温は平年よりやや低く、最低気温はやや高く、平均気温は平年並であった。日平均気温の月平均は15.3 で平年より1.5度高かった。降水量は上旬・中旬・下旬とも平年並であった（月合計50.0mmで平年の80%）。日照時間は上旬が平年より多く、中旬・下旬は平年並であった（月合計158.1時間で平年の132%）。

7月：上旬の最高気温は平年よりやや高く、最低気温は極めて低く、平均気温は平年よりやや低かった。中旬の最高気温・最低気温・平均気温は平年より極めて低かった。下旬の最高気温・最低気温・平均気温も平年に比べて極めて低く、7月23日には最低気温が6.5 まで下がった。日平均気温の月平均は15.3 で平年より3.3度低かった。降水量は上旬・中旬・下旬とも平年より少なかった（月合計22.5mmで平年の19%）。日照時間は上旬が平年よりやや多く、中旬は平年並、下旬は平年よりやや多かった（月合計155.9時間で平年の149%）。

8月：上旬の最高気温は平年並、最低気温は平年より高く、平均気温は平年よりやや高かった。中旬の最高気温・最低気温・平均気温は平年よりやや低かった。下旬の最高気温は平年並、最低気温は平年より低く、平均気温は平年よりやや低かった。日平均気温の月平均は18.4 で平年より0.5度低かった。降水量は上旬が平年より極めて多く、中旬は平年並、下旬は平年より極めて少なかった（月合計212.5mmで平年の209%）。8月上旬の降水は大半が8月9日から10日にかけての台風10号によるもの（134.5mm）である。日照時間は上旬が平年よりやや少なく、中旬・下旬は平年並であった（月合計115.9時間で平年の91%）。

9月：上旬の最高気温は平年並、最低気温は平年より低く、平均気温は平年よりやや低かった。中旬の最高気温は平年並、最低気温は平年よりやや低く、平均気温は平年並であった。下旬の最高気温は平年よりやや低く、最低気温は平年並、平均気温は平年よりやや低かった。日平均気温の月平均は14.3 で平年より0.6度低かった。降水量は上旬・中旬が平年よりやや少なく、下旬は平年並であった（月合計75.0mmで平年の48%）。日照時間は上旬・中旬・下旬とも平年並であった（月合計129.2時間で平年の107%）。

10月：上旬の最高気温は平年並、最低気温は平年より低く、平均気温は平年よりやや低かった。中旬の最高気温は平年よりやや低く、最低気温・平均気温は平年並であった。下

旬の最高気温・最低気温・平均気温はは平年より高かった。日平均気温の月平均は8.6で平年より0.2度高かった。降水量は上旬は平年よりやや少なく、中旬は平年より少なく、下旬は平年より多かった（月合計71.0mmで平年の102%）。日照時間は上旬・下旬は平年より極めて多く、中旬は平年並であった（月合計175.4時間で平年の122%）。

11月：上旬の最高気温は平年より高く、最低気温・平均気温は平年よりやや高かった。中旬の最高気温は平年よりやや高く、最低気温は平年より高く、平均気温は平年よりやや高かった。降水量は上旬は平年より少なく中旬は平年よりやや少なかった。日照時間は上旬は平年よりやや多く、中旬は平年並であった。

注）降水量、日照時間についての平年値との比較表現は、各旬における過去10年間の出現値の幅に基づいているため、「平年並」に含まれる値の範囲は旬毎に異なる。

農耕期間中（5月～9月）の気温、降水量及び日照時間の推移を平年と比較すると以下のとおりである。

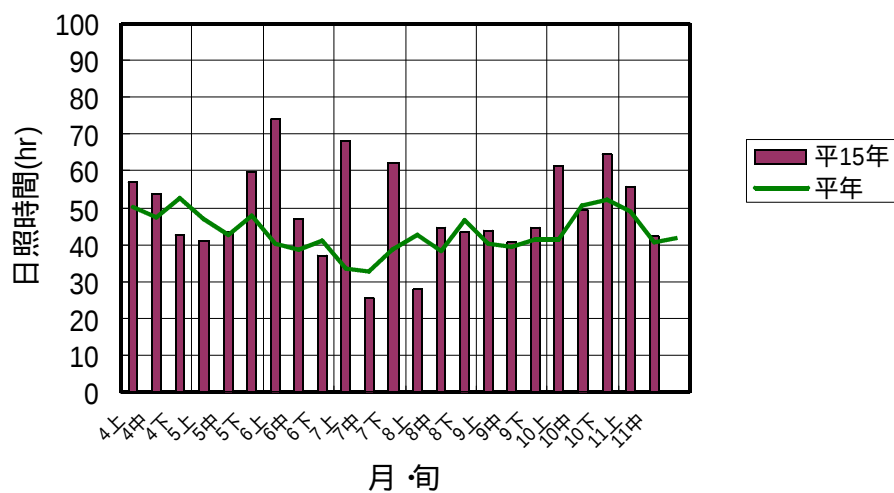
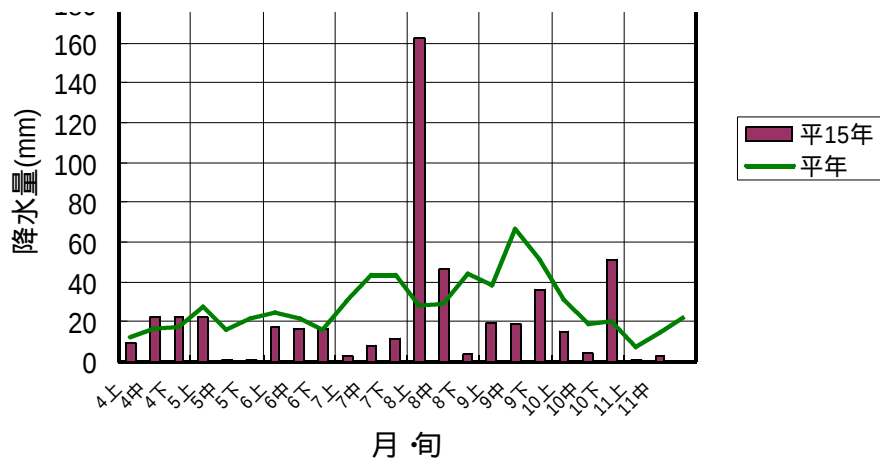
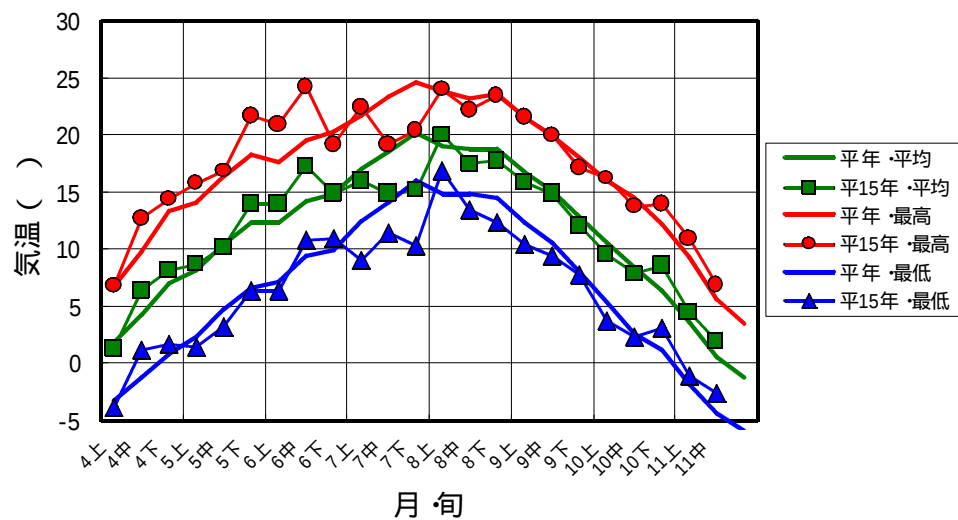
気温：5月・6月は平年よりやや高く、7月は平年より極めて低く、8月は平年並、9月は平年よりやや低かった。この期間の平均気温の積算値は2274.8度で、平年より66.8度少なかった。

降水量：8月に台風10号の降雨により平年より多かった他は、5月・6月・7月・9月のいずれも平年より少なかった。この期間の降水量の積算は384.0mmで、平年より118.1mm少なかった。

日照時間：6月・7月が多く、5月・8月・9月は平年並であった。この期間の日照時間の積算は703.4時間で、平年より92.2時間多かった。

以上のことから、本年の農耕期間中の気象は、気温が低く、降水量は少なく、日照時間はやや多かった。

2．気温、降水量及び日照時間の平年との比較



3 . 気象表

月 旬	平均気温()			最高気温()			最低気温()			降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
4上	1.3	1.9	0.6	6.8	6.8	0.0	-3.9	-3.2	0.7	9.5	12.4	2.9	57.0	50.1	6.9
4中	6.4	4.2	2.2	12.7	9.8	2.9	1.2	-1.2	2.4	22.5	16.7	5.8	53.6	47.6	6.0
4下	8.1	7.0	1.1	14.3	13.3	1.0	1.7	0.8	0.9	22.5	17.4	5.1	42.8	52.8	10.0
5上	8.7	8.2	0.5	15.8	14.1	1.7	1.4	2.3	0.9	22.5	27.4	4.9	41.1	47.2	6.1
5中	10.1	10.5	0.4	16.9	16.4	0.5	3.2	4.7	1.5	0.5	16.1	15.6	43.4	42.8	0.6
5下	14.0	12.4	1.6	21.7	18.3	3.4	6.4	6.6	0.2	1.0	21.4	20.4	59.8	47.8	12.0
6上	13.9	12.3	1.6	20.9	17.7	3.2	6.4	7.1	0.7	17.0	24.9	7.9	74.0	40.1	33.9
6中	17.3	14.2	3.1	24.2	19.5	4.7	10.8	9.3	1.5	16.5	21.9	5.4	46.9	38.6	8.3
6下	14.8	14.8	0.0	19.2	20.2	1.0	10.9	9.9	1.0	16.5	15.8	0.7	37.2	40.9	3.7
7上	16.0	16.9	0.9	22.5	21.7	0.8	9.1	12.5	3.4	3.0	30.7	27.7	68.1	33.5	34.6
7中	14.8	18.5	3.7	19.1	23.3	4.2	11.5	14.1	2.6	8.0	43.4	35.4	25.5	32.7	7.2
7下	15.1	20.1	5.0	20.3	24.6	4.3	10.3	16.0	5.7	11.5	43.2	31.7	62.3	38.7	23.6
8上	20.0	19.1	0.9	24.0	23.8	0.2	16.9	14.8	2.1	162.5	28.2	134.3	27.9	42.7	14.8
8中	17.5	18.8	1.3	22.1	23.2	1.1	13.4	14.8	1.4	46.5	29.2	17.3	44.5	38.4	6.1
8下	17.7	18.8	1.1	23.5	23.5	0.0	12.4	14.5	2.1	3.5	44.4	40.9	43.5	46.6	3.1
9上	15.9	16.8	0.9	21.6	21.5	0.1	10.5	12.3	1.8	19.5	38.2	18.7	44.0	40.2	3.8
9中	14.8	15.0	0.2	20.0	19.9	0.1	9.4	10.5	1.1	19.0	66.2	47.2	40.6	39.4	1.2
9下	12.1	12.8	0.7	17.2	18.0	0.8	7.8	8.0	0.2	36.5	51.7	15.2	44.6	41.5	3.1
10上	9.5	10.5	1.0	16.2	16.0	0.2	3.7	5.4	1.7	15.5	31.2	15.7	61.3	41.2	20.1
10中	7.9	8.4	0.5	13.7	14.5	0.8	2.3	2.6	0.3	4.0	18.6	14.6	49.5	50.7	1.2
10下	8.6	6.3	2.3	14.0	12.2	1.8	3.1	1.2	1.9	51.5	20.2	31.3	64.6	52.1	12.5
11上	4.5	3.6	0.9	11.0	9.3	1.7	-1.0	-1.9	0.9	1.0	7.4	6.4	55.7	48.9	6.8
11中	2.0	0.6	1.4	6.9	5.7	1.2	-2.6	-4.4	1.8	3.0	14.1	11.1	42.2	40.6	1.6

注) 観測値は置戸町境野のアメダスによる。平年値は前10か年の平均値である。

4 . 季節表

項目 年次	前 年 根雪始	融雪 期	根雪 期間	耕鋤 始	降雪 終	晩霜	初霜	無霜 期間	降雪 始	農耕期間の積算(5 ~ 9 月)		
	月日	月日	日数	月日	月日	月日	月日	日数	月日	平均気温 (度)	降水量 (mm)	日照時間 (h)
本 年	11.26	4.14	140	4.28	4.21	5.11	10.14	155	11.12	2274.8	384.0	703.4
平 年	12. 1	4. 9	130	4.25	4.28	5.22	10.10	140	11. 1	2341.6	502.1	611.2
比 較	Δ 5	5	10	3	Δ 7	Δ 11	4	15	11	Δ 66.8	Δ 118.1	92.2

注) 農耕期間の積算は置戸町境野のアメダス観測値により、それ以外は北見農試観測値である。

２．当場の作況^{注)}

注) 本作況報告は北海道立北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走支庁管内全体を代表するものではありません。

１) 秋まき小麦(平成14年9月播種) 作 況：良

事 由：播種は平年より1～2日早く、出芽は2日早かった。秋期の気温は10月3半旬まで平年より高く、その後低くなったものの根雪前の草丈、茎数は平年を上回った。根雪始は11月26日で平年より5日早く、融雪期は平年より5日遅い4月14日で積雪期間は平年より10日長かった。雪腐病の発生は少なかったが雪腐病に弱い品種では一部の個体及び茎葉に枯死が見られた。4月中旬から5月上旬は高温に経過し、その後平年並となったが、5月下旬から再び高温となったため生育はかなり早く進み、出穂期は平年より3日程度早かった。その後一転して低温となり、7月中・下旬の気温は極めて低かった。そのため登熟はかなり緩慢となり、成熟期は、早生の「タクネコムギ」を除き平年より3日～5日遅かった。穂数、穂長は平年を上回り、また、登熟期間が長く、千粒重も平年より重くなったため、子実重は極めて多収となった。粒の外観品質は、粒色がやや淡いものの粒の充実は良く、等級は全ての品種で1等であった。

以上のことから本年の作況は良である。

(「チホクコムギ」・「ホロシリコムギ」の一覧表は次ページに掲載)

調査項目	タクネコムギ			ホクシン		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期(平成14年月・日)	9.13	9.14	1	9.13	9.14	1
出芽期(平成15年月・日)	9.20	9.22	2	9.20	9.22	2
出穂期(平成15年月・日)	6.4	6.6	2	6.8	6.13	5
成熟期(平成15年月・日)	7.22	7.23	1	7.28	7.25	3
草丈(cm) (平成14年11月20日)	25.4	22.2	3.2	24.6	21.1	3.5
(平成15年5月20日)	48.7	43.2	5.5	51.1	39.1	12.0
(平成15年6月20日)	109.2	102.4	6.8	100.0	91.9	8.1
茎数(本/m ²)(平成14年11月20日)	2288	1860	428	2074	1463	611
(平成15年5月20日)	1693	1362	331	1852	1331	521
(平成15年6月20日)	1043	891	152	884	785	99
稈長(cm) (成熟期)	96	95	1	89	88	1
穂長(cm) (成熟期)	8.4	7.7	0.7	9.3	8.5	0.8
穂数(本/m ²)(成熟期)	929	839	90	777	708	69
子実重(kg/10a)	694	454	240	868	559	309
同上平年比(%)	153	100	53	155	100	55
リットル重(g)	802	782	20	810	795	15
千粒重(g)	37.8	37.7	0.1	40.2	37.7	2.5
品質(検査等級)	1	1	0	1	1	0

調査項目	チホクコムギ			ホロシリコムギ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期（平成14年月．日）	9.13	9.14	1	9.13	9.15	2
出芽期（平成15年月．日）	9.20	9.22	2	9.20	9.22	2
出穂期（平成15年月．日）	6.12	6.15	3	6.12	6.12	0
成熟期（平成15年月．日）	8. 1	7.27	5	8. 1	7.29	3
草丈（cm）（平成14年11月20日）	27.5	21.2	6.3	25.9	20.6	5.3
（平成15年 5 月20日）	46.2	41.1	5.1	49.3	48.1	1.2
（平成15年 6 月20日）	92.6	89.8	2.8	103.3	98.8	4.5
茎数（本/m ² ）（平成14年11月20日）	2242	1825	417	2187	1549	638
（平成15年 5 月20日）	1897	1387	510	1677	1331	346
（平成15年 6 月20日）	893	762	131	903	723	180
稈長（cm）（成熟期）	92	91	1	101	97	4
穂長（cm）（成熟期）	7.2	7.2	0.0	8.8	8.5	0.3
穂数（本/m ² ）（成熟期）	823	690	133	745	628	117
子実重(kg/10a)	781	525	256	736	533	203
同上平年比(%)	149	100	49	138	100	38
リットル重(g)	773	770	3	795	782	13
千粒重(g)	42.2	36.0	6.2	45.7	41.8	3.9
品質(検査等級)	1	2	1	1	2	1

注) 平年値は前7か年中、「タクネコムギ」は平成12年、14年を、「ホクシン」は平成10年、14年を、「チホクコムギ」は平成8年、14年を、「ホロシリコムギ」は平成8年、12年をそれぞれ除く5か年の平均。「ホクシン」の播種量は255粒/m²、その他の品種の播種量は340粒/m²。

2) 秋まき小麦（平成15年9月播種） 作 況：やや良

事 由：「タクネコムギ」「チホクコムギ」「ホロシリコムギ」の播種は平年より2日遅い9月16日に行った。試験区が異なる「ホクシン」の播種は、降雨等の影響により9月22日に行い、平年より8日遅かったが、播種後9月6半旬の気温は高く、出芽は良好であった。10月上・中旬に一時、気温が下がったがそれ以外は気温が高い日が多く、草丈は平年よりやや低いものの茎数は平年より多かった。「ホクシン」についても主茎の葉数は、ほぼ5.5枚となっており、分けつの発達も良く、平年並の生育は確保されている。

以上のことから目下の作況はやや良である。

品 種 名	播種期（月・日）			出芽期（月・日）			草丈（cm）			茎数（本/㎡）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
タクネコムギ	9.16	9.14	2	9.24	9.22	2	18.6	20.4	1.8	2138	1895	243
ホクシン	9.22	9.14	8	9.29	9.22	7	14.8	18.7	3.9	1593	1488	105
チホクコムギ	9.16	9.14	2	9.24	9.22	2	18.4	19.1	0.7	2206	1714	492
ホロシリコムギ	9.16	9.14	2	9.24	9.22	2	18.4	19.7	1.3	2109	1624	485

注）平年値は前7か年中、「タクネコムギ」、「ホクシン」は平成14年、15年、「チホクコムギ」、「ホロシリコムギ」は平成は11年、15年を除く5か年の平均。「ホクシン」の播種量は255粒/㎡、その他の品種の播種量は340粒/㎡。

3）春まき大麦（二条大麦） 作 況：やや不良

事 由：播種期は平年並の5月2日であった。播種後の気温は平年並であったが、播種後に降雨があり、出芽期は平年より2日早い5月13日であった。出芽期が平年より早く、5月下旬の気温が高かったため、初期生育は良好であった。6月上旬以降の気象条件は、平年に比べると気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多かった。このため、圃場は乾燥ぎみに経過したものの、作物に対する影響はなく、生育は順調であった。6月20日の草丈・葉数は平年並であったが、茎数は平年より多かった。7月上旬は最高気温がやや高く、降水量が少なく、日照時間が長かった。このため、生育は平年より早く進み、出穂期は平年より2日早かった。6月以降の干ばつ傾向が続いたため、節間伸長が不十分であり、稈長は短かった。また、分げつの無効化が進み、7月20日の穂数は平年比92%であった。7月下旬は気温が低く経過し、登熟はゆっくり進んだ。成熟期は平年より2日遅く、登熟期間は平年より4日長い35日であった。登熟期間の日照時間が長く、倒伏の発生も無かったため、穀粒の充実は良好であった。

成熟期における稈長は平年より11cm短く、穂数、稈実粒数とも平年を下回った。このため、子実重は平年比96%であった。千粒重は著しく重く、整粒歩合がやや高かったため、整粒重は平年並であった。粗蛋白含有量は平年より低かった。

以上のことから本年の作況はやや不良である。

調査項目	本年	平年	比較
播種期（月・日）	5. 2	5. 2	0
出芽期（月・日）	5.13	5.15	2
出穂期（月・日）	7. 4	7. 6	2
成熟期（月・日）	8. 8	8. 6	2
草丈（cm）（5月20日）	9.0	7.8	1.2
（6月20日）	42.4	43.1	0.7
稈長（cm）（7月20日）	76	87	11

調査項目	本年	平年	比較
茎数（本/㎡）（6月20日）	1151	968	183
穂数（本/㎡）（7月20日）	557	604	47
稈長（cm）（成熟期）	76	87	11
穂長（cm）（成熟期）	6.3	6.3	0
穂数（本/㎡）（成熟期）	557	604	47
1穂粒数（成熟期）	19.8	21.1	1.3
不稈率（%）（成熟期）	1.5	1.4	0.1
倒伏程度（成熟期）	無	微	-

調査項目	本年	平年	比較
子実重 (kg/10a)	356	370	14
同上平年比 (%)	96	100	4
リットル重 (g)	710	656	54
千粒重 (g)	51.6	42.4	9.2
整粒歩合 (%)	94.6	91.8	2.8
整粒重 (kg/10a)	337	339	2
粗蛋白質含量 (%)	8.9	11.4	2.5

注) 品種は「りょうふう」である。

平年値は前7か年中、平成9年、12年を除く5か年の平均。

4) 春まき小麦 作 況：やや不良

事 由：融雪期は平年より5日遅い4月14日であったが融雪剤を撒布した圃場では1週間程度融雪が早く、圃場の乾燥も早かったため播種は平年より1日早い4月24日に行った。播種後の気温はやや高めに推移し、出芽期は平年より3日早い5月6日であった。5月下旬から6月中旬は平年より気温がかなり高く、出穂期は平年より6日早かったが、この間の降水量は少なく、圃場は干ばつ傾向であったため、生育が抑えられ、稈長は平年より低く、穂数も少なくなった。その後、7月、8月の低温により登熟は緩慢となり、成熟期は平年並の8月14日であった。登熟期間は平年より6日長くなり千粒重は平年より重くなったが穂数が少なかったため子実重は平年よりやや劣った。リットル重は平年を上回ったが、外観品質は粒の充実がやや悪く、2等となり平年並であった。

以上のことから本年の作況はやや不良である。

調査項目	本年	平年	比較
播種期 (月・日)	4.24	4.25	1
出芽期 (月・日)	5.6	5.9	3
出穂期 (月・日)	6.22	6.28	6
成熟期 (月・日)	8.14	8.14	0
草丈 (cm) (5月20日)	13.3	13.8	0.5
(6月20日)	60.1	60.1	0.0
茎数 (本/m ²) (6月20日)	328	375	47
(7月20日)	566	721	155

調査項目	本年	平年	比較
稈長 (cm) (成熟期)	78	85	7
穂長 (cm) (成熟期)	8.2	8.2	0.0
穂数 (本/m ²) (成熟期)	421	493	72
子実重 (kg/10a)	360	376	16
同上平年比 (%)	96	100	4
リットル重 (g)	799	787	12
千粒重 (g)	42.2	39.0	3.2
品質 (検査等級)	2	2	0

注) 品種は「ハルユタカ」である。平年値は前7か年中、平成9年、11年を除く5か年の平均。

5) とうもろこし 作 況：平年並

事 由：播種期は平年より2日早かったが、播種期前後の降水不足により発芽がやや遅れ、出芽期は平年並であった。その後は降水不足および5月の低温の影響で生育が一時停滞したが、8月上旬の気温がやや高く降水もあったため回復し、抽糸期は平年並であった。8月下旬以降は気温がやや低く推移したため登熟が遅れ、収穫期は平年より5日遅い9月30日であった。収穫期の熟度、乾物総重、推定TDN収量、総体乾物率はいずれも平年並であった。

以上のことから本年の作況は平年並である。

調査項目	本年	平年	比較
播種期（月・日）	5.16	5.18	2
出芽期（月・日）	5.30	5.30	0
開花期（月・日）	8. 6	8. 4	2
抽糸期（月・日）	8. 7	8. 7	0
収穫期（月・日）	9.30	9.25	5
収穫期の 熟度	黄熟 初期	黄熟 初期	
草丈（cm）（ 6 月20日）	31.5	26.1	5.4
（ 7 月20日）	111.0	128.6	17.6
（ 8 月20日）	250	263	13
稈長（cm）（ 9 月20日）	216	229	13

調査項目	本年	平年	比較
葉数（枚）（ 6 月20日）	5.7	3.7	2.0
（ 7 月20日）	11.6	11.5	0.1
（ 8 月20日）	14.2	14.0	0.2
生総重（kg/10a）	5814	5833	19
乾物茎葉重（kg/10a）	713	745	32
乾物雌穂重（kg/10a）	781	725	56
乾物総重（kg/10a）	1494	1470	24
推定TDN収量（kg/10a）	1078	1050	28
同上平年比（％）	103	100	3
総体の乾物率（％）	25.8	25.4	0.4
乾雌穂重割合（％）	52.3	49.3	3.0
有効雌穂割合（％）	100.0	99.6	0.4

注）品種は「ディアHT」である。

平年値は前5か年の平均（平成10年に供試品種を変更したため）。

推定TDN収量 = 乾物茎葉重 × 0.582 + 乾物雌穂重 × 0.850

6）大豆 作 況：平年並

事 由：播種から出芽期までの日数は平年並で出芽後の生育は順調であった。7月上旬以降は気温が低めに経過し、特に7月中旬は平均気温が平年を約4℃も下回ったことから初期生育はやや停滞した。続く7月下旬も平均気温は平年より5℃低く、開花前～開花期の低温により着莢障害が起き、莢の伸張は停滞したが、登熟期間の気温は概ね平年並に経過し、莢の伸長、子実の肥大は進んだ。成熟期は平年並からやや早まり、成熟期の着莢数は両品種ともに平年に比べて約1割少なかったが、百粒重が平年をやや上回ったため、子実重は概して平年並であった。子実の品質は「トヨコマチ」は平年並であったが、「トヨホマレ」は未熟による青み粒が発生したため、特定加工用大豆合格となり、平年より劣った。

以上のことから本年の作況は平年並である。

調査項目	トヨコマチ			トヨホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期（月・日）	5.22	5.24	2	5.22	5.24	2
出芽期（月・日）	6. 7	6. 8	1	6. 6	6. 8	2
開花始（月・日）	7.21	7.21	0	7.24	7.24	0
成熟期（月・日）	9.28	10.4	6	10.9	10.8	1
主茎長（cm）（ 6 月20日）	11.7	8.7	3.0	9.8	6.2	3.6
（ 7 月20日）	35.2	41.7	6.5	31.3	36.1	4.8
（ 8 月20日）	65.3	62.5	2.8	64.1	60.7	3.4
（ 9 月20日）	65.4	63.0	2.4	64.5	60.2	4.3
（成熟期）	65.4	62.7	2.7	64.5	60.3	4.2

調査項目	トヨコマチ			トヨホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
本葉数（枚）（ 6 月20日 ）	1.2	0.7	0.5	1.1	0.6	0.5
（ 7 月20日 ）	5.8	6.3	0.5	5.9	6.3	0.4
主茎節数（ 8 月20日 ）	11.9	11.0	0.9	12.2	11.7	0.5
（ 9 月20日 ）	11.6	11.0	0.6	12.3	11.8	0.5
（ 成熟期 ）	11.6	11.0	0.6	12.3	11.8	0.5
分枝数（本/株）（ 7 月20日 ）	2.5	2.4	0.1	2.6	1.9	0.7
（ 8 月20日 ）	4.9	5.4	0.5	4.9	4.5	0.4
（ 9 月20日 ）	4.6	5.2	0.6	4.9	4.3	0.6
（ 成熟期 ）	4.6	5.3	0.7	4.9	4.3	0.6
着莢数（個/株）（ 8 月20日 ）	58.3	66.7	8.4	48.5	70.6	22.1
（ 9 月20日 ）	52.7	59.1	6.4	60.9	68.6	7.7
（ 成熟期 ）	52.7	60.4	7.7	60.9	69.2	8.3
子実重(kg/10a)	299	295	4	315	299	16
同上平年比(%)	101	100	1	105	100	5
百粒重(g)	32.6	31.8	0.8	32.4	30.2	2.2
屑粒率(%)	0.2	1.2	1.0	0.6	0.8	0.2
品質(検査等級)	3 上	3 上		特定 加工用 合格	3 上	

注) 平年値は前7か年中、平成10年、12年を除く5か年の平均。

7) 小 豆 作 況：やや不良

事 由：播種から出芽期までの日数は平年並で出芽後の生育は順調であった。7月上旬以降は気温が低めに経過し、特に7月中旬は平均気温が平年を約4度も下回ったことから生育はやや停滞した。続く7月下旬も平均気温は平年より5度低く、開花前～開花期の低温により着莢障害が起き、莢の伸張は停滞し、「サホロショウズ」では主茎長もかなり低く推移した。登熟期間の気温は概ね平年並に経過し、成熟までに霜による被害を受けなかった。「エリモショウズ」は成熟期が平年に比べて大きく遅れ、着莢数も少なかったが、百粒重が平年を上回り、子実重はほぼ平年並となった。一方、「サホロショウズ」は、成熟期の遅れは小さかったものの、着莢数は少なく百粒重はほぼ平年並のため、子実重は平年を下回った。子実の品質は、「サホロショウズ」はほぼ平年並であったが、「エリモショウズ」は屑粒の中に占める未熟粒の比率が高く、規格外であった。

以上のことから本年の作況はやや不良である。

調査項目	エリモショウズ			サホロショウズ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期（月・日）	5.22	5.24	2	5.22	5.24	2
出芽期（月・日）	6.11	6.12	1	6.9	6.12	3
開花始（月・日）	7.30	7.27	3	7.26	7.25	1
成熟期（月・日）	10.10	9.26	14	9.24	9.21	3
播種期（月・日）	5.22	5.24	2	5.22	5.24	2
出芽期（月・日）	6.11	6.12	1	6.9	6.12	3
開花始（月・日）	7.30	7.27	3	7.26	7.25	1
成熟期（月・日）	10.10	9.26	14	9.24	9.21	3
主茎長（cm）（6月20日）	4.5	3.0	1.5	4.1	2.9	1.2
（7月20日）	11.0	11.7	0.7	9.9	11.1	1.2
（8月20日）	37.4	49.5	12.1	19.1	43.9	24.8
（9月20日）	45.5	53.4	7.9	21.1	44.8	23.7
（成熟期）	45.5	53.2	7.7	21.1	44.8	23.7
本葉数（枚）（6月20日）	0.4	0.3	0.1	0.8	0.3	0.5
（7月20日）	4.2	4.5	0.3	4.5	4.4	0.1
主茎節数（8月20日）	11.9	12.6	0.7	9.7	10.5	0.8
（9月20日）	11.8	13.1	1.3	9.5	10.9	1.4
（成熟期）	11.8	13.3	1.5	9.5	10.9	1.4
分枝数（本/株）（7月20日）	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1
（8月20日）	4.1	3.6	0.5	2.7	4.3	1.6
（9月20日）	3.1	3.1	0.0	3.4	3.8	0.4
（成熟期）	3.1	3.1	0.0	3.4	3.9	0.5
着莢数（個/株）（8月20日）	14.2	28.6	14.4	22.5	36.8	14.3
（9月20日）	35.6	44.7	9.1	33.3	45.3	12.0
（成熟期）	36.3	45.7	9.4	33.3	46.0	12.7
子実重(kg/10a)	364	363	1	245	321	76
同上平年比(%)	100	100	0	76	100	24
百粒重(g)	17.2	15.9	1.3	17.5	16.8	0.7
屑粒率(%)	7.7	3.6	4.1	7.0	4.3	2.7
品質(検査等級)	規格外	3上		2下	3上	

注) 平年値は前8か年中、平成10年、14年および試験を中止した12年を除く5か年の平均。

8) 菜 豆 作 況：良

事 由：播種後、気温が高く推移したために播種から出芽期までの日数は平年並～やや短かった。出芽後の高温により生育は順調で、大正金時の開花期は平年より早かった。その後、7月上旬以降は気

温が低く経過したことから生育はやや停滞したが、着莢に及ぼす低温の影響は小さく、着莢数は金時は平年並、手亡は平年よりやや多く推移した。金時は成熟期前の平均気温がやや低かったため、成熟期が平年に比べてやや遅れたが、着莢数は平年並であり、百粒重が平年を大きく上回ったため子実重は平年を上回った。手亡は着莢数が平年より多く、百粒重もやや上回り子実重は平年を上回った。子実の品質は、金時はほぼ平年並であったが、「雪手亡」は1等で平年より優った。

以上のことから本年の作況は良である。

調査項目	大正金時			雪手亡			福勝		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期(月・日)	5.22	5.25	3	5.22	5.25	3	5.22	5.25	3
出芽期(月・日)	6.6	6.12	6	6.7	6.10	3	6.9	6.12	3
開花始(月・日)	7.6	7.13	7	7.21	7.23	2	7.7	7.14	7
成熟期(月・日)	9.15	9.7	8	9.22	9.25	3	9.16	9.11	5
主茎長(cm) (6月20日)	11.4	7.2	4.2	6.5	5.2	1.3	8.8	7.6	1.2
(7月20日)	32.5	32.6	0.1	36.4	31.2	5.2	29.9	34.3	4.4
(8月20日)	37.0	41.6	4.6	56.7	55.4	1.3	36.7	45.8	9.1
(9月20日)	37.0	43.6	6.6	58.9	58.4	0.5	38.7	46.5	7.8
(成熟期)	37.0	43.6	6.6	58.9	58.4	0.5	38.7	45.3	6.6
本葉数(枚) (6月20日)	1.2	0.3	0.9	1.2	0.4	0.8	0.9	0.5	0.4
(7月20日)	3.7	3.3	0.4	6.1	6.0	0.1	3.7	3.4	0.3
主茎節数 (8月20日)	5.8	5.2	0.6	10.8	9.5	1.3	5.9	5.3	0.6
(9月20日)	5.9	5.3	0.6	11.6	9.4	2.2	5.8	5.4	0.4
(成熟期)	5.9	5.3	0.6	11.6	9.4	2.2	5.8	5.4	0.4
分枝数(本/株)(7月20日)	4.2	3.3	0.9	6.1	5.2	0.9	4.3	2.7	1.6
(8月20日)	4.7	4.1	0.6	7.3	7.5	0.2	4.2	3.5	0.7
(9月20日)	4.2	3.6	0.6	6.2	6.6	0.4	4.3	3.1	1.2
(成熟期)	4.2	3.6	0.6	6.2	6.6	0.4	4.3	3.1	1.2
着莢数(個/株)(8月20日)	19.6	20.4	0.8	48.2	40.0	8.2	19.4	18.2	1.2
(9月20日)	17.6	18.2	0.6	39.2	31.8	7.4	17.6	16.5	1.1
(成熟期)	17.6	18.2	0.6	39.2	31.8	7.4	17.6	16.2	1.4
子実重(kg/10a)	315	283	32	461	397	64	373	291	82
同上平年比(%)	111	100	11	116	100	16	128	100	28
百粒重(g)	86.4	72.9	13.5	37.9	34.3	3.6	103.4	84.3	19.1
屑粒率(%)	7.3	1.7	5.6	1.1	4.1	3.0	9.2	2.1	7.1
品質(検査等級)	2中	2下		1	2中		3上	2下	

注) 平年値は前8か年中、平成11年、13年および再播した10年を除く5か年の平均。

9) ばれいしょ 作 況: 不良

事 由: 植え付けは、ほぼ平年並の5月12日に行った。萌芽期は「男爵薯」「コナフブキ」とともに、

ほぼ平年並であったが、植え付け後の高温傾向の影響で、開花始は両品種とも1週間程度早まった。それ以降は、7月の干ばつの影響を大きく受けて、生育量が伸び悩み、茎長は両品種とも平年比60%程度とかなり短くなった。それに伴って、枯凋期は特に早生品種で著しく早まり、「男爵薯」で平年より20日早い8月21日、「コナフブキ」で7日早い9月30日となった。

生育量の著しい減少と生育期間の短縮のため、両品種とも上いも重は平年より大きく減少し、「男爵薯」で平年の60%、「コナフブキ」で平年の71%となった。でん粉価は7月の低温のため、「男爵薯」で1.3ポイント、「コナフブキ」で1.0ポイント高くなった。「コナフブキ」のでん粉重は上いも重の大幅な減少を受けて、平年比74%と少収であった。

以上のことから本年の作況は不良である。

なお、本試験圃場は特に干ばつが激しかったために不良となったものとみられ、管内作況の見込みでは平年並である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
植付期(月・日)	5.12	5.13	1	5.12	5.12	0
萌芽期(月・日)	6. 1	6. 2	1	6. 4	6. 3	1
開花始(月・日)	6.27	7. 3	6	6.27	7. 3	6
枯凋期(月・日)	8.21	9.10	20	9.30	10.7	7
茎長(cm) (6月20日)	14.3	14.9	0.6	12.9	14.0	1.1
(7月20日)	30	50	20	48	69	21
(8月20日)	-	54	-	50	84	34
茎数(本/株)(6月20日)	2.9	3.3	0.4	2.6	2.7	0.1
(7月20日)	2.9	3.6	0.7	3.0	2.8	0.2
(8月20日)	-	3.6	-	3.2	2.9	0.3
でん粉価(%) (8月20日)	17.0	15.5	1.5	21.9	20.8	1.1
(9月20日)	16.6	15.3	1.3	22.9	22.6	0.3
上いも数(個/株)	6.0	9.7	3.7	7.8	9.4	1.6
上いも1個重(g)	100	103	3	101	119	18
上いも重(kg/10a)	2767	4593	1826	3620	5117	1497
同上平年比(%)	60	100	40	71	100	29
でん粉価(%)	16.6	15.3	1.3	23.5	22.5	1.0
でん粉重(kg/10a)	-	-	-	815	1098	283
同上平年比(%)	-	-	-	74	100	26

注) 平年値は前7か年中、「男爵薯」は平成9年、14年を、「コナフブキ」は平成9年、11年をそれぞれ除く5か年の平均。

10) てんさい 作 況: 良

事 由: 移植は平年より5日早く行い、その後の活着と初期生育も良好であった。7月にやや干ばつの影響を受けたものの、大きな被害はなく、その後の生育は冷涼な気象のため順調であった。収穫は平年どおり10月20日に行った。初霜が遅かったため、茎葉の生育は平年に比べて旺盛であった。降水

量も登熟期間中、平年を下回ったために根中糖分の増加も順調であった。移植栽培の糖量は二品種平均で平年比107%であり、直播栽培も平年比114%と良好な作柄であった。

以上のことから本年の作況は良である。

調査項目	移植						直播		
	モノホマレ			ストーク			モノホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期（月・日）	3.26	3.27	1	3.26	3.27	1	5. 6	5.10	4
移植期（月・日）	5. 6	5.11	5	5. 6	5.11	5	-	-	-
出芽期（月・日）	-	-	-	-	-	-	5.19	5.21	2
収穫期（月・日）	10.20	10.20	0	10.20	10.20	0	10.20	10.20	0
草丈（cm）（6月20日）	26.6	24.2	2.4	27.5	25.3	2.2	16.8	13.4	3.4
（7月20日）	53.8	55.2	1.4	53.8	55.8	2.0	48.5	51.6	3.1
（8月20日）	62.3	60.5	1.8	63.3	60.1	3.2	62.9	64.5	1.6
（9月20日）	59.4	63.5	4.1	59.1	60.6	1.5	63.5	65.9	2.4
生葉数（枚）（6月20日）	12.4	12.4	0.0	10.7	12.0	1.3	7.6	6.8	0.8
（7月20日）	19.4	21.9	2.5	17.3	21.5	4.2	17.4	20.1	2.7
（8月20日）	28.5	27.0	1.5	27.0	27.2	0.2	28.2	25.5	2.7
（9月20日）	31.0	30.7	0.3	31.9	31.3	0.6	32.9	28.8	4.1
根周（cm）（7月20日）	19.3	20.4	1.1	21.6	22.5	0.9	16.3	16.4	0.1
（8月20日）	26.6	26.9	0.3	30.6	30.3	0.3	25.4	24.5	0.9
（9月20日）	31.7	31.5	0.2	34.0	34.4	0.4	29.5	29.1	0.4
茎葉重（kg/10a）	6408	5402	1006	6555	5000	1555	5805	5406	399
根 重（kg/10a）	5918	5903	15	5539	5287	252	5567	5063	504
同上平年比（％）	100	100	0	105	100	5	110	100	10
根 中 糖 分（％）	18.04	17.65	0.39	18.93	18.07	0.86	17.76	17.16	0.60
同上平年比（％）	102	100	2	105	100	5	103	100	3
糖 量（kg/10a）	1068	1036	32	1049	947	102	989	864	125
同上平年比（％）	103	100	3	111	100	11	114	100	14

注）平年値は前7か年中、移植「モノホマレ」は平成10年、14年を、「ストーク」は平成10年、13年を、直播は平成10年、11年をそれぞれ除く5か年の平均。

11) 牧 草 作 況：不良

事 由：萌芽期は混播草地で平年より1～4日遅かったが、単播草地では5日早かった。冬枯程度は微であった。混播草地の被度は平年より低かった。各草種の出穂始・出穂期ならびに開花始は平年より1～6日早かった。草丈は、混播草地の3番草を除く全調査で平年並か平年より低かった。混播草地のマメ科率は、1番草でやや低かった他は平年並であった。乾物率は、混播草地の3番草で平年よりやや低かった他は平年並か平年より高かった。乾物収量は、混播草地の3番草で平年より高かった他は平年並か平年より低く、特に混播草地の1番草と単播草地の2番草で低かった。混播および単播草地の年間合計乾物収量の平年比はそれぞれ91%、87%であり、両者を平均した数値の平年比は90%

であった。年間合計乾物収量が平年より低かったのは、5月中～下旬および7月上～下旬の少雨により、それぞれ1番草、2番草の生育が不良になったことによると考えられる。

以上のことから本年の作況は不良である。

調査項目	チモシー・ アカクローバ 混播草地			チモシー単播草地		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
チモシー萌芽期（月・日）	4.21	4.17	4	4.15	4.20	5
アカクローバ萌芽期（月・日）	4.15	4.14	1	-	-	-
冬枯程度	微	-	-	微	-	-
全体被度（％） 5月19日	76	93	17	-	-	-
アカクローバ被度（％）5月19日	48	56	8	-	-	-
チモシー出穂始（月・日）	6.12	6.14	2	6.12	6.15	3
チモシー出穂期（月・日）	6.17	6.18	1	6.16	6.20	4
アカクローバ開花始（月・日）	6.13	6.19	6	-	-	-
刈取日（月・日） 1番草	6.18	6.18	0	6.18	6.18	0
2番草	8. 8	8. 8	0	8. 8	8. 8	0
3番草	10.6	10.6	0	10.6	10.6	0
チモシー草丈(cm) 5月19日	31	39	8	37	39	2
1番草	87	97	10	83	95	12
2番草	64	84	20	44	73	29
3番草	58	54	4	33	49	16
アカクローバ草丈（cm）5月19日	19	26	7	-	-	-
1番草	72	79	7	-	-	-
2番草	71	78	7	-	-	-
3番草	51	42	9	-	-	-
マメ科率（％） 1番草	60.9	65.3	4.4	-	-	-
2番草	83.9	83.4	0.5	-	-	-
3番草	75.0	78.6	3.6	-	-	-
乾物率（％） 1番草	20.6	17.8	2.8	26.0	23.7	2.3
2番草	15.9	13.7	2.2	23.2	23.0	0.2
3番草	14.5	15.4	0.9	25.1	25.6	0.5

調査項目	チモシー・アカクローバ 混播草地				チモシー単播草地			
	本年	平年	比較	平年比 (%)	本年	平年	比較	平年比 (%)
生草収量 (kg/10a) 1 番草	2456	3610	1154	68	1472	1751	279	84
2 番草	2162	2829	667	76	437	719	282	61
3 番草	1477	860	617	172	494	471	23	105
合 計	6095	7299	1204	84	2403	2941	538	82
乾物収量 (kg/10a) 1 番草	500	627	127	80	382	413	31	92
2 番草	343	382	39	90	102	162	60	63
3 番草	215	155	60	139	124	121	3	102
合 計	1058	1164	106	91	608	696	88	87

草地	年間合計乾物収量 (kg/10a)			
	本年	平年	比較	平年比 (%)
チモシー・アカクローバ混播	1058	1164	106	91
チモシー単播	608	696	88	87
2 草地平均	833	930	97	90

- 注) 1. 各草種の品種はチモシーが「ノサップ」、アカクローバが「サップロ」である。
2. 冬枯程度は、無：0%、微：1～20%、少：21～40%、中：41～60%、多：61～80%、甚：81～100%枯死をそれぞれ示す。また混播草地の冬枯程度はイネ科・マメ科両者の枯死割合である。
3. 混播草地の乾物率は、チモシーとアカクローバを併せた全体についてのものである。
4. 平年値は前7か年中、混播草地では平成8年と11年を、単播草地では8年と14年をそれぞれ除く5か年の平均。

12) たまねぎ 作 況：良(参考)

事 由：播種は平年より1日遅い3月12日に行った。播種後は低温に推移したため、出芽期は平年より3日遅い3月26～27日であった。育苗期間中は概ね高温傾向に推移し、苗生育は順調であった。融雪期は平年より遅く、4月以降は降雨も多かったが、移植は平年より4日早い5月14日に行った。移植時の苗は、草丈、葉数が平年より若干劣る傾向にあった。移植後の干ばつのため苗の活着はやや遅れたが、6月上旬のまとまった降雨により生育は回復し、その後も6月中旬以降の適宜灌水により生育は順調に進んだ。7月下旬の低温により地上部の生育は停滞したが、8月上旬の多雨の影響により土壌中の水分が多くなったため球肥大は急速に進んだ。白斑葉枯病等の病害の発生はほとんど見られなかった。球肥大期は平年より10日前後早まり、球径および球重は平年を大きく上回った。倒伏期は平年より大幅に早まったが、枯葉期は平年と同等であった。収穫物の一球重は重い、球肥大が進んだことによる変形、分球等が多く、規格内率は平年並か平年より低かった。全体としては、総収量が

平年を大きく上回ったために規格内収量も高くなった。

以上のことから本年の作況は良（参考）である。

調査項目	スーパー北もみじ			北もみじ			改良オホーツク１号		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期（月・日）	3.12	3.11	1	3.12	3.11	1	3.12	3.11	1
出芽期（月・日）	3.27	3.24	3	3.27	3.23	4	3.26	3.23	3
移植期（月・日）	5.14	5.18	4	5.14	5.18	4	5.14	5.18	4
球肥大期（月・日）	7.28	8. 6	9	7.27	8. 8	12	7.17	7.27	10
倒伏期（月・日）	8.20	9. 4	15	8.16	8.26	10	8.11	8.18	7
枯葉期（月・日）	9.19	9.17	2	9.17	9.17	0	9. 5	9. 7	2
草丈（cm）（５月20日）	22.3	25.7	3.4	21.0	25.8	4.8	26.3	28.3	2.0
（６月20日）	27.5	21.6	5.9	30.1	20.6	9.5	29.8	23.9	5.9
（７月20日）	74.3	68.1	6.2	77.0	68.3	8.7	68.8	64.8	4.0
生葉数（枚）（５月20日）	3.1	3.2	0.1	2.4	2.9	0.5	3.1	3.3	0.2
（６月20日）	4.8	3.7	1.1	4.4	3.2	1.2	4.6	3.8	0.8
（７月20日）	10.1	8.8	1.3	8.4	8.1	0.3	9.3	8.8	0.5
葉鞘径（mm）（５月20日）	4.3	3.9	0.4	3.2	3.7	0.5	4.6	3.9	0.7
（６月20日）	7.2	5.9	1.3	6.9	5.8	1.1	8.0	6.5	1.5
（７月20日）	18.9	15.6	3.3	17.9	14.7	3.2	17.9	15.6	2.3
葉身生重（g）（７月20日）	78.4	57.6	20.8	73.2	51.4	21.8	81.3	57.8	23.5
球径（cm）（７月20日）	32.3	20.8	11.5	32.4	19.9	12.5	43.9	24.9	19.0
（８月20日）	75.9	61.6	14.3	71.2	59.0	12.2	77.0	66.5	10.5
球生重（g）（７月20日）	28.0	10.1	17.9	28.2	9.1	19.1	52.8	16.1	36.7
（８月20日）	212.0	134.4	77.6	187.3	117.0	70.3	232.7	151.2	81.5
葉身乾物率（％）（８月20日）	11.4	8.5	2.9	10.4	8.4	2.0	9.0	8.2	0.8
総収量（kg/10a）	8090	5320	2770	6880	4960	1920	6240	5050	1190
規格内収量（kg/10a）	6660	5080	1580	6010	4610	1400	5460	4490	970
同上平年比（％）	131	100	31	130	100	30	122	100	22
規格内率（％）	82	95	13	87	93	6	88	89	1
平均一球重（g）	256	183	73	218	170	48	201	172	29

注）平年値は固定ほ場（火山性土）の成績、本年は沖積土の成績のため、「参考扱い」とする。前7か年中、「スーパー北もみじ」は平成12年、13年を、「北もみじ」および「改良オホーツク１号」は平成10年、12年をそれぞれ除く5か年の平均。

付表 各作物の耕種概要(1)

作物名	一区面積(m ²)	反復	前作物	畦幅 cm	株間 cm	一株 本数	播種粒数 粒/m ²	播種量 kg/10a	株数 株/10a
1.秋まき小麦	6.0	4	緑肥大豆	30.0	条播	-	340(255)	-	-
2.二条大麦	7.2	4	大豆	30.0	条播	-	340	-	-
3.春まき小麦	7.2	4	菜豆	30.0	条播	-	340	-	-
4.とうもろこし	11.6	3	大豆	66.0	20.0	1	-	-	7,576
5.大豆	9.6	3	秋まき小麦	60.0	20.0	2	-	-	8,333
6.小豆	9.6	3	秋まき小麦	60.0	20.0	2	-	-	8,333
7.菜豆	9.6	3	秋まき小麦	60.0	20.0	2	-	-	8,333
8.ばれいしょ	25.9	2	とうもろこし	72.0	30.0	1	-	-	4,630
9.てん菜	100	3	秋まき小麦	60.0	23.8	1	-	-	7,003
10.牧草									
TY・RC混播草地	8.8	4	緑肥えん麦	散播	-	-	-	TY:1.0 RC:0.4	-
TY単播草地	6.0	4	緑肥えん麦	60.0	条播	-	-	1.0	-
11.たまねぎ	9.0	2	たまねぎ	30.0	10.5	1	-	-	3,175

注) 秋まき小麦の播種粒数欄の()は「ホクシン」の播種粒数を示す。

牧草のTYはチモシー、RCはアカクローバを示す。

付表 各作物の耕種概要(2)

作物名	施肥量 (kg/10a)						備考
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	堆肥	その他	
1.秋まき小麦	6+3	20.0	9.6	4.0	3,000	硫酸銅：4.0	2年目草地 同上
2.二条大麦	4.0	16.2	9.4	3.4		重過石：150	
3.春まき小麦	10.0	18.0	12.0	5.0		炭カル：150	
4.とうもろこし	14.0	22.0	12.0	4.0			
5.大豆	1.8	20.0	7.8	3.0			
6.小豆	4.0	20.0	11.2	4.0			
7.菜豆	4.0	16.0	9.3	3.3			
8.ばれいしょ	4.8	12.0	8.4	3.0			
9.てん菜	15.0	21.3	13.8	5.0			
10.牧草							
TY・RC混播草地	6.0	12.0	14.0	2.5		炭加：200、タフリン：28.6	
TY単播草地	14.5	15.0	14.5	2.3		同上	
11.たまねぎ	15.0	50.0	15.0	3.5	2,000	炭カル：50	